

# Weekly コラム

平成 27 年 10 月 20 日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4 号館 4 階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会) Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

## 活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

## ドイツ革命

ドイツのインダストリー 4.0 をご存知でしょうか。単純に日本語訳をすると第 4 次産業革命となりますが、本日はそれをご紹介したいと思います。

特徴として出てくるキーワードが「考える工場」です。工場での製造といえば同じ種類のものを大量生産というイメージが出てきます。コンピューターによる生産自動化で、画期的に生産性が向上したのはご承知の通りです。この方式が定着したのが 20 世紀後半で、それが第 3 次産業革命と言われますが、「考える工場」はその上をいくものと捉えられます。概要をお伝えすると、大量生産を行いながら、その作り出す品物それぞれが特注のオーダー品にできるというものです。これにより、特注品をより安価で作り出す事ができるようになり、大きなコストダウンに繋がると予想されている事が、革命と言われる所以です。

その仕組みはこうです。例えば、自動車組立工場、ある部品が一定の水準を下回ると、その情報が自動的に別の部品企業に通知されます。部品工場ではその情報を受けて自動的に部品を製造し、自動車組立工場に供給します。部品取引の決済も自動的に IT システムが記録、処理します。つまり、人間が下請け会社にメールなどで部品を注文する必要がなくなる事を意味し、スピードが早く、かつ色々な注文に即座に応えられ

る事を意味します。それを可能にするのに必要な事は 2 点に集約されます。1 つは、製造に関わる機械をすべてネットワークに接続することで、もう 1 つは製品の上流から下流までのあらゆる工程（開発・生産・流通）で扱うデータを共通化することです。これら 2 つの作業が完了すると、1 つの商品の情報を一気に通貫で管理できるようになります。ドイツのシーメンスの工場などでは、既にこうした事が実験的に始まっています。

設備をネットワーク化し、データを標準化して一気に通貫で扱うためには、当然ながら現在の縦割り型組織の形を変えなければなりません。それをドイツでは官民一体で 2020 年に完成させる計画として、その実現に向けて事業を進めています。

今の時代に欠かす事ができなくなってきたデジタル化が「モノづくり」の世界にも密接に関わってこようとしています。モノづくりの国でありながら、デジタル化という点では少し遅れをとっている事を否めない日本。デジタル技術が社会全体を変革するツールとしてどれだけ役立つのか、もっと真剣に注目しなければいけない事を、このインダストリー 4.0 に訴えかけられている様な気がします。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、

skc-soudan@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX ご不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。